



模擬国連で、各国を代表して意見を表明する高校生や専門学校生たち（22日、京都市左京区・国立京都国際会館）

食糧問題 高校生ら白熱

左京 模擬国連、英語で議論

高校生らが英語で国際問題を議論する「関西高校模擬国連大会」が京都市左京区の国立京都国際会館で開かれており、2日目の22日は総会があった。生徒たちが各国の代表とな

って食糧問題で世界は何ができるかを利害調整しながら話し合った。

模擬国連は、国連の議事進行に近い形で課題解決を体験し、国際問題への理解を深める狙い。教員らで

つくる実行委員会が毎年開催し、今大会は21回目で京都を中心に大阪や神奈川などの高校と専門学校計11校約230人が参加している。

この日午前、各国の旗が机に並ぶ会場で開かれた総会では、アフリカ・中東グループが前日の地域会議でまとめた先進国の政府開発援助（ODA）による井戸の整備や給食実施などの解決策を提案。参加者は関係国との非

公式討議や他国とのメモのやりとりなど実際の国際会議さながらの交渉を行い、決議を目指した。

アフリカ・マラウイの代表を務めた京都外大西高3年の間野恵実さん（17）は「各国それぞれ利害があつてまとめるのは難しいが、世界という視点で解決したい」と話した。

23日も別の課題を話し合う総会を開き、閉幕する。

（梶井進）